

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中等 3	学校名	県立古河中等教育学校						課程	全日制		学校長名			中久喜 歩			
教頭名	横倉 敏治				栗原 正典							事務（室）長名			坂本 友之			
教職員数	教諭	47	養護教諭	2	常勤講師	2	非常勤講師	12	実習教諭, 実習講師, 実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	5	計	76	
生徒数	学科			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合 計		合 計 クラス数
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科			60	60	60	60	59	60	60	54	59	56	57	56	355	346	18

2 目指す学校像

- 6 年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、生徒一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。
- 科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。
- 異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	豊かな心 (寛容の精神、謙虚さ、思いやり) と確かな学力を兼ね備えた次代のリーダーの育成 ○ 6 年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、生徒一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○ 科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○ 異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○ Σソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的な学習活動を展開し、科学的思考力や判断力、表現力を培う。 ○ 6 年間の体系的なシラバス作成と学習システムを構築し、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって自主的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○ 学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○ 知的好奇心が豊かで、他者と協働して課題を探究しようという意欲のある児童 ○ 国際的な諸問題や医学に高い関心をもち、社会貢献への意識が高い児童 ○ 他者との違いを認め合い、お互いに尊重し合うことができる児童

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	○昨年度、「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合が 88.6%であり、学習活動の充実に努めている。 ○生徒一人一人の学習到達度に合わせた学習指導をさらに充実させる必要がある。	○授業形態の工夫や I C T を効果的に活用した、生徒の主体的・探究的な学習活動の継続 ○学習到達度（個）に応じた学習支援の充実
生徒指導	○基本的な生活習慣の育成や望ましい人間関係の確立を目指し、個に寄り添った生徒指導を実践している。	○個に応じた生徒指導の望ましい在り方 ○教育相談体制の充実
進路指導	○6年間のキャリア教育計画概要を基に、生徒の発達段階に応じた進路指導を実践している。 ○各種講演会やワークショップ等を通して自身を見つめ直し、希望する進路を実現するためにすべきことを見いだすことで、在学中及び将来の目標を明確に定める指導を実践している。	○6年間を見通した体系的なキャリア教育の実践 ○講演会等の記録による振り返りの実践
特別活動	○学級活動の時間を中心とし、生徒一人一人にとって居場所のある学校生活を送るための指導を実践している。 ○学校行事の並びに生徒会活動における主体的で望ましい運営に向けて取り組んでいる。	○6年間を見通した自主的・自治的な活動を推進するための特別活動の在り方と実践
働き方改革	○学校全体として超過勤務時間月平均 45 時間以内をおおむね実施することができている。一方で、超過勤務時間増大となる教員もいる等、偏りが生じている。	○教育活動への効率化を図った、校務分掌の分散や行事の精選等の実践 ○勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進

5 中期的目標

- Σソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的な学習活動を展開し、科学的思考力や判断力、表現力を培うことができる。
- 6年間の体系的な教育活動を通じて、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって自主的・主体的に学習に取り組むことができる。
- 学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成することができる。
- 教職員が自らの人間性や創造性を高めながら、効果的な教育活動が行えるような環境の醸成に努め、働き方改革の実現を目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
Σソフィア・プロジェクトの推進	○Σアカデミア（弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成）、Σコミュニケーション（発信力・論理力の育成）、Σサイエンス（科学的思考力の育成）、課題研究（創造力・探究力の育成）の各委員会と校務部や年次が連携し、Σソフィア・プロジェクト（古河中等式探究活動）を計画的に実施する。
開かれた学校づくりと広報活動の充実	○本校の特色ある教育活動及び教育活動全般について、ホームページや各種たより等で保護者や地域の方々に順次発信する。 ○広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な学校説明会や学校公開等の実施を図る。
高い学力の育成と探究的な学習の確立	○アクティブ・ラーニング型や少人数指導、ティーム・ティーチング等の授業形態の工夫やICT等の活用により、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習指導及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習指導を展開する。

別紙様式 1 （中等）

生徒指導と教育相談体制の充実	○基本的な生活習慣を定着させるとともに、多くの体験活動を通して豊かな心の育成を図る。 ○スクールカウンセラーや担任等との面談や相談を組織的・計画的に実施し、生徒の「心の悩み」に対する支援を積極的に行い、生徒にとって安心・安全な学校生活になるよう、教育相談体制の充実を図る。 ○学校環境衛生及び学校安全管理の維持向上を図る。
キャリア教育の推進	○学習と探究活動の系統的指導を通して、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。 ○課題を発見する力や自己管理能力の伸長を促し、生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を行う。 ○キャリア・パスポートを活用し、学びを振り返りながら、新たな課題や生活への意欲につなげたり、将来の生き方 を考えたりする活動を促す。
学習到達度（個）に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや学習支援を行う。 生徒による授業評価において、授業満足度の評定平均 3.5 以上
働き方改革の推進	○教育活動の効率化を図るための共通理解と情報共有、校務分掌の分散や行事の精選、見直しを実施する。 ○勤務時間への意識、積極的に勤務時間の削減を図り、教職員が休暇等を取得しやすい環境づくりに努める。